

令和3年第2回(6月)議会一般質問議事録

日田市自治基本条例に基づく市民が主役のまちづくりについて

◆中島章二(10番) [登壇]

日田市自治基本条例に基づく市民が主役のまちづくりについて質問します。この条例は日田市においての自治の基本原則を明らかにし、市民の権利と責務、行政・市議会が担う役割と市民参画、協働、情報の共有を規定したもので、日田市はこのルールに沿って、これからのまちづくりを行っていているものと理解しています。まちづくりを行う中で、多様化する地域課題やニーズの解決方法はどのように行っているのでしょうか。地域だけに任せるのではなく、行政とともに課題発見から課題解決方法を考え、取り組むことが大切であると思います。どのように実施、取り組んでいるのか、お聞かせください。

次に、人の力が生かされるまちづくりは社会教育事業でも人を育てることから始めるまちづくりを行っていますが、人材育成、人材発掘はどのように行っているのか、お聞かせください。

次に、住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくりへの取組については、上津江、中津江地域の住民自治組織では、高齢者が安心して生活できるという将来像を定めた地域活性化プランでまちづくりに取り組んでいるようですが、現在の活動状況についてお聞かせください。

○企画振興部長(中嶋美穂君) [登壇]

私からは日田市自治基本条例に基づく市民が主役のまちづくりにつきましてお答えいたします。

平成26年4月に施行されました市民を主体としたまちづくりの実現を図ることを目的とした日田市自治基本条例は、本市における自治の基本原則を明らかにするため、市民の権利と責務、市議会や行政が担うそれぞれの役割を明記しているほか、市民参画と協働、情報共有を進めるための基本的なルールを規定するものでございます。

議員御質問の多様化する地域課題やニーズの解決方法についてでございますが、人口減少に伴い、加速化する高齢化社会の中、地域の課題は多様化してきております。その課題の発見から、解決方法の一つとして、上・中津江振興局管内において設立している住民自治組織の例を申し上げますと、地域住民へのアンケート結果から見えてきた地域課題を解決するため、住民自治組織では、今後予測される問題や地域をどのように維持していくか、そのために何が必要かなども含め、地域住民と市と一緒に住民の意思を尊重し、課題の共有・解決に向けた協議を続けながら組織運営を行っております。

例えば、中津江住民自治組織では、振興局との協議の中で、現在実施されている新型コロナウイルスワクチン接種について、高齢者に分かりやすく伝えるにはどうするかという共通の課題を持ち、集落支援員も加わり、地域の見守り活動と併せワクチン接種について分かりやすい瓦版を作成し、配布や声かけを行うなど、課題解決へ向けて一緒に取り組んでいるところでございます。

次に、人の力が生かされるまちづくりへの取組についてでございます。市民が主役のまちづく

りを実行するには、人材の育成や人材の掘り起こしが重要なことから、先ほど申し上げました上・中津江それぞれの住民自治組織では、組織の委員として若い人や女性、様々な職種の方などに声かけを行い、人材の掘り起こしを積極的に行い、会議の中で活発な意見をいただいているところでございます。市といたしましても、地域住民一人一人が活躍できる場を持てるよう、住民自治組織と連携し、まちづくりの取組を考えてまいります。

また、人の力が生かされる地域人材の一つとして、地域おこし協力隊もでございます。市では、平成24年度から地域おこし協力隊の制度を取り入れ、これまでに任期を終えた隊員が14人、そのうち12人が定住し、様々な場面で地域活動に力を発揮してくれております。

一例を挙げますと、元地域おこし協力隊の松永氏は、平成29年、九州北部豪雨災害からの復旧復興を推進するため着任し、災害の復興支援について専門的な知識を生かし、小野地区の復旧復興や地域支援活動を行い、任期途中にはNPO法人を立ち上げ、令和2年7月豪雨災害においては、被災地域へ迅速に入り、住民に寄り添った支援活動を行いました。昨年、任期を終え、現在は市内に定住し、復興支援、防災教育、移住促進活動などに取り組んでおり、地域の人材として今後も期待をしております。

次に、住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくりへの取組として、上・中津江地域の住民自治組織が行う高齢者が安心して生活できる取組についてでございます。それぞれの住民自治組織では、将来像を定めた地域活性化プランを作成し、高齢者が安心して生活できるまちづくりへの取組を行っております。

上津江住民自治組織の安心して暮らせる高齢者に優しいまちを目指す取組といたしましては、高齢者や独り暮らしの見守りや声かけ、独り暮らしの高齢者に総菜を届ける活動などを行うほか、災害が起きても安心して暮らせる仕組みづくりや防災講演会を開催するなど、大きな災害に備えた啓発活動などに取り組んでおります。

また、中津江住民自治組織では、高齢者の生きがい、交流の場の提供として、バザーや野菜市の開催、市の手続等に不慣れな高齢者向けに講座を開催するなど、困り事の解決だけでなく、よりよく暮らすために学ぶ機会の提供なども行っております。

今後も、どの地域においても、高齢化や人口減少、地域コミュニティの希薄化による地域課題も多様していくことが予測されますことから、住民と市が連携を図りながら、市民一人一人が誇りを持って、安心して幸せに暮らすことができる市民主体のまちづくりへの実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

日田市自治基本条例に基づく市民が主役のまちづくりについてですが、上津江、中津江を中心に活動状況を部長のほうから発言いただいたところで、行政が市民と共にこれからのまちづくりを行っているということがよく分かったところでございます。

ただし、3月までの議会中もそうでしたが、上・中津江地区における地域活性化プランの下、高齢者が安心して生活できる取組については、施設統合という説明をずっと行ってきた状況ですけれど、突然中津江単独の再建事業となったり、住民の方に十分な説明がされないまま進んできたような経緯があるかと思っています。

また、上津江地区でのデイサービスの在り方についても方向性が定まっていない中、1か所に統合する執行部の考えが地元で説明されていないということもありました。先ほどお聞きした内容とはちょっと異なっているように思っているんですが、これについて市長のほう、どのようにお考えであるかということをお聞きしたいんですが、よろしくをお願いします。

○議長(石橋邦彦君) 市長。

○市長(原田啓介君) どの部分が聞きたいでしょうか。ちょっと今、幅広過ぎてどれか……。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) 今、まちづくりのほうで住民の方と協議を進めながら、いろんな意見交換をしながらその地域の課題を発見し、まちづくりに進んでいるということでございました。同じように今回、高齢者福祉施設それからこども園の関係も住民の方と意見を協議しながら進めていく必要があったかと思っているんですけど、その状況が今回上・中津江の福祉施設の移転、統合問題について、同じようなやり方で行ってきたのかということが、聞いていく中では少し違っていたのかなと私は感じましたので、今、部長の答弁がありましたけど、市長のほうで日田市の行政の方針としてやり方が同じだったのかということをお聞かせ願えればと思います。

○議長(石橋邦彦君) 市長。

○市長(原田啓介君) 基本的なまちづくりという意味だけではなく、様々な施策をしていく上で、対象者、受益者含めた住民の方々、また市民の方々と協議を進めていくことは当然のことでございます。この案件に関わらず全ての事業はやっぱりそういうふうになっていくもんだというふうに考えております。その中の一環だというふうに思っております。

ただ、この上・中の福祉施設の統合ということに関しては説明不足であったりというようなことがあります。ここまで話が来たのかなというふうにも感じておりますので、その後も随分協議は進めているというようなことでございますので、その方向を聞きながら、今度は一つの施策として施設の建設、そして行政の果たさねばならぬ責務として施設そのものをそこに設置していくということに関しての話を進めていければというふうに考えております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) 今、施設のほうを建設に向けてということでお話あったかと思っております。

もう一つ、今回、上津江地域の皆様方には、予算計上された事業名では中津江の施設ということで上げられてきたかと感じております。上津江の皆さんに対しては、今も協議を行っているかと思っておりますけど、今後どのような対応をしていき、どのような合意形成を行っていくのか、市としての考え方、市長が思う合意形成のやり方についてお答えいただければと思います。

○議長(石橋邦彦君) 市長。

○市長(原田啓介君) 後ほど、実はこの予算があるんだけど、その件に関してはどういうふうに進めてきたかということは、保健福祉部長のほうから詳しいことはここか後ほどかという状況になろうとは思いますが、説明はしようというふうに思っております。

いずれにしても、先ほど申し上げたように、この施設をしっかりとあの地域に起こしていくということが、あの地域で安心して暮らしていける拠点となるということは間違いないし、こういったものをしっかりと整備していくということが行政の責務だというふうに考えておりますので、その部分を進めていくということには何もぶれることはございません。

ただ、それに対してどれほどの理解をしていただけるかということが大きな課題だったということでございますので、今後もその協議もしくは説明ということは続けていく、ただし、際限のない話ではなく、早くしないと、これは上津江の方であろうと中津江の方であろうと関係なく、非常に困っている方がいらっしゃいますし、また災害がやってくるというようなことがまた今後も続きますので、一日も早くそういう整備というものを気持ちよく進めればというふうには考えております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) 今おっしゃっていただいたように市長中心として、まちづくりの一環として今回の上・中津江の福祉施設、それからこども園の関係の事業につきましても、市民協働のまちづくりの基本に進めていっていただくことをお願いしたいと思っております。

それから、一番最初の質問に行かせていただきたいと思っております。

切れ目、隙間のない多様な子育て支援についてですが、まず、今、登壇質問については福祉部局のほうから御回答をいただいたところでございます。